



アクテジ

NO. 107

名古屋市演劇練習館機関紙

エッセイ



「ひとりごと」

ティナ棚橋
(劇団サラダ 代表)

若い頃「いつまで役者とかやれると思う？」と聞かれたことがある。僕は恰好をつけて言った。「さあ？多分死ぬまでやってると思いますよ。」自分の言動には責任を持ちたい…が、思えば途方もないことを口にしたものだ。

いい年になった。この道をもう30年以上…。寝る事と食う事、排泄する事以外ここまで続けていることはない。響きのよい称号を何とか自分の冠に留めておく為に、七転八倒しながら走り続けて、今に至るわけだ。役者というあやふやな称号を手元に留めるために。

あやふやというのには訳がある。役者は技術職だと思っている。しかし役者に免許はない。そして役者という冠は、名乗れば誰でも自分で頭に戴くことができる冠。本人がその気なら役者でいいのだ。な

んとも甘美な響きの軽い冠だろう。

演ずるといのはいつまでたっても底なのか天井なのか見えてこない。やればやるほど行き着く先は「誰でもできる」ことなのだ。



劇団サラダ 第26回公演
「Start Over」
'17年5月12日～14日
ユースクエアにて

(こういうと語弊があるかもしれないが…ダンスや身体表現、楽器、歌。修練を必要とする部分は敬意をもって省かせていただきます) 演ずるといのはともかく貰った役で生きる事。生きていく事に関しては、基本誰しも当たり前喜怒哀楽を抱え、七転

八起しながら日々を生きている。そして、生きている中でほぼ毎日誰かの前で、恋人の前で、家庭の中で、社会の中で、ごく自然に自分を演じているのだ。だから、きっかけとその気さえあれば、誰でもすぐに役者ができる…。

ある時、役者を名乗る自分が滑稽に思えてきた。疲れた。でも、それではこの冠を落とすまいと七転八倒してきた自分が衰えたということで、「誰でもできる」にもう一言付け加えてみた。「役者は誰でもできる。でも、誰もが役者にはなれない」うん、これなら頑張れる気がする。周りの人々も普通に役者ならば、その上を行かなければ役者とは認められない。役者を名乗り続けたかったのではなく、役者になりたかったのだ。自称役者からどうすれば役者になれるのか？



劇団サラダ 第28回公演
「リベレーション！」
'19年4月19日～21日
ユースクエアにて

これで稼ぎ、これで生き、これであり続ける…まだ役者ではなかった自分に愕然とした。改めて途方もない道を選んだものだと振り返れば、いい年になっていた。今更後戻りはできない。転びながら走るには体も追いつかない。だけど、かすかなプライドだけは胸に残っていた。「ここまではやってきた。」

役者は通り過ぎていくもの。演じた役者はいつしか忘れられる存在。残るのは作品と役。それが演劇。それが仕事。そして、どんなにいい作品でも人はおぼろげに忘れていくのだ。それでも数多の役を演じた時折々で、僕の名前は知らずとも「ああ、あの人だ」と、気付かないうちに後ろから誰かが、そっと冠をかぶせてくれる。その冠の名が役者であれば、きっと僕は役者であり続けることができるのだろう。今、遠い昔の自分の言葉を胸に、そう思いながら上を向き、時折転びながらも、歩いている。

トピックス

「誰でもない者が、誰かを救おうとして。」

～ オレンジスタ10周年を迎えて～

ニノキノコスター（劇作家、演出家）

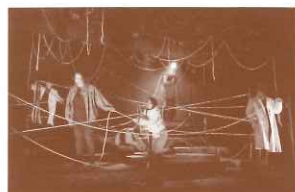


—ただ、あなたに生きていてほしい。
それが我々の10年間かもしれません。

2009年に劇団「オレンジスタ」を旗揚げし、主宰が別途いる中で、座付作家・演出家として活動してきました。変わったこともあれば、変わらないこともあります。元々は、実際に起きた社会的な事件をエログロ寄りの劇作にし、歌やダンスなどのエンタメ演出で仕立て上げてきましたが、設立から5年経った頃から会話劇とコンテンポラリーダンスの融合や、人形劇の技法であるオブジェクトパフォーマンスやパネルシアターなどを取り入れた作品を創り始めました。これはある時に自身や劇団を顧みて「このままでは誰でもない、何者でもない者になる」と気付いたからではないかと、今にして思います。かつて自身が演劇に命を救われた時、鮮烈に生を呼び起こしてくれた作品の数々、そんな演劇を届けるには自身も強烈な誰か、特異な何者かにならなくては—。

その結果、カメレオンの如く手法が変わる集団となり、10周年を迎えようやく或る種の無二の劇団となりつつあるように思われます。方向性が変われども付き合い続けてくれた主宰や団員、客演の俳優さんやスタッフさんたち、そして小屋や劇場、稽古場が変わらず其処に在ってくれたこと、何より観て下さった皆様のお陰だと思えます。

現在は夏期に予定していた各種公演も延期となり「#出前スタ」と称しインターネット上で過去作品の配信や、ビデオ会議ソフトを利用した稽古配信など行っています。同時に秋以降の公演に向けソーシャルディスタンスを保った状態で俳優が舞台上に存在する意味がある演劇とは何か、コンセプトを練っている最中です。この悪夢のような現実の中、今後とも劇団モットーである「最高に最低なハッピー」を届けていきます。また10年後、またこの誌面でお会い出来たら幸いです。アスタラビスタ、アディオス!



オレンジスタ 第9回公演
「黒い砂礫」
'20年3月14日～22日
七ツ寺共同スタジオにて
写真:羽鳥直志

アクテノン・シャワー

■ YouTube [SMILE×SMILE NAGOYA] を開設しました!

名古屋市文化振興事業団では、より多くの皆様に文化芸術に親んでもらうために、公式YouTubeチャンネル[SMILE×SMILE NAGOYA]を開設し、動画配信を開始しています。

オリジナルミュージカル「山三と阿国」(2018年上演)をはじめ、過去の公演や舞台の動画をご自宅でお楽しみいただけます。さらに、アーティストからのメッセージや、劇場の舞台裏紹介など、続々と更新されていますので、ぜひチェックしてみてください。

今後も様々なコンテンツを配信し、名古屋から全国に笑顔(スマイル)を広げてまいります!



■ 「アクテノン～お家でスマイル!～」動画配信決定!

アクテノン・フェスティバルは、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、中止となりました。

今年は、中村区で文化活動をしている方のパフォーマンスを皆さまにご自宅でご覧いただくために、「アクテノン～お家でスマイル!～」を名古屋市文化振興事業団の公式YouTubeチャンネルで配信することが決定しました。

お家でスマイル! お楽しみに。

配 信: 令和2年10月下旬～

運 営: アクテノン・フェスティバルプロジェクトチーム

主 催: (公財)名古屋市文化振興事業団

共 催: 名古屋市中村区役所



アクテノン利用団体紹介

① 発足年 ② 団員数 ③ 主な上演作品/会場(上演年) ④ 連絡先

演劇 一般社団法人名古屋市青少年ミュージカル



初めまして。名古屋市青少年ミュージカルです。当団体は舞台制作を通じた青少年育成をコンセプトに、毎年春のオーディション、顔合わせを経て、約3ヶ月の稽古期間の後、本番を迎えるといった15週間プログラムを打ち出すほか、定期的なレッスン(名古屋市青少年ミュージカル研究科)やワークショップを開催しております。グループレッスンの見学やご体験、プロ志望者の個別指導等、随時お問い合わせください。今後も名古屋市におけるエンターテインメントの発展を願い、盛り上げてまいります。

アクテノンに一言 お世話になっております。今年は感染予防の観点より公演を中止し、代わりに「サマープログラム2020(コロナ対応型)」(ワークショップ)を開催。今後ともよろしく願いいたします。

① 2018年 ② 70名

③ 『Bon Voyage～パリの回転木馬～』/青少年文化センター(アートピアホール)('19年) 『Miss Lily～大切な人がいる～』/緑文化小劇場('18年)

④ 高橋 早霧

住所: 名古屋市緑区久方3-14 はなぶさビル2階

☎052-838-8750

HP: <http://www.ns-musical.com>

E-mail: ask_nsm@ns-musical.com



編集発行/令和2年8月25日(年4回)

〒453-0841 名古屋市文化振興事業団 [演劇練習館 [アクテノン]]

〒453-0841 名古屋市中村区稲葉地町1-47

TEL 052-413-6631 FAX 052-413-6632

※この印刷物は、古紙パルプを含む再生紙を使用しています。



「友の会」会員募集中!
<http://www.bunka758.or.jp/>

施設からの情報をご覧ください! だけです!

